

血中ペプチドマーカーで現在のがんのリスクが分かる

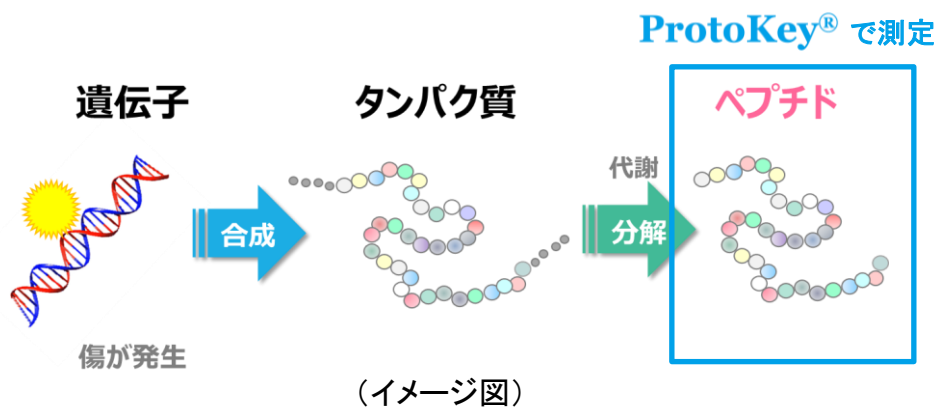
ProtoKey[®] 大腸がんリスク検査

< ProtoKey[®] (プロトキー) 大腸がんリスク検査 とは? >

大腸がんで特異的に増減する血中ペプチド量を測定することで、大腸がんのリスクを調べる血液検査です。採血のみで簡単に一次スクリーニングが実施できるため、大腸がんの予防・早期発見にご活用いただくことが可能です。

◆がん発生時の体内変化

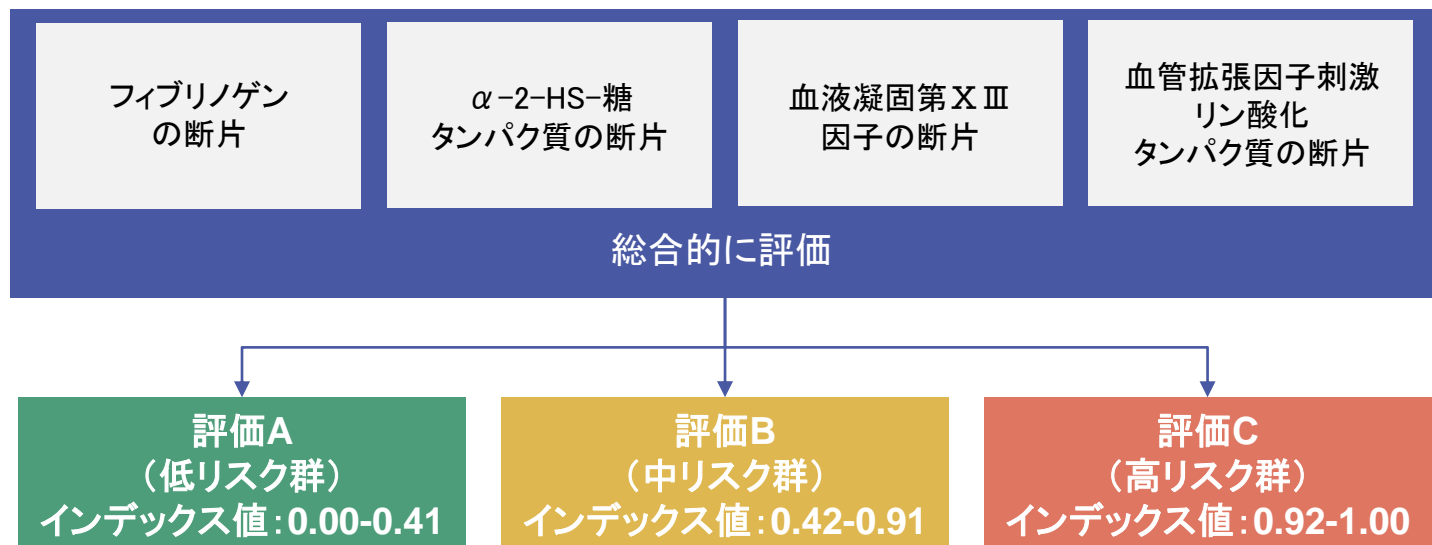
体内で変化した酵素やタンパク質により、がんに近い状態特有のペプチド断片が切り離されると考えられます。



< ProtoKey[®] 大腸がんリスク検査の特徴 >

検査では4種類のペプチドを測定し、「がんに近い状態」かをリスク評価として算出いたします。リスクは評価A(低リスク群)、B(中リスク群)、C(高リスク群)の三段階で判定します。京都府立医科大学附属病院の研究成果からは感度82%、特異度93%と、高い精度を示すことが報告されています。

◆大腸がんのバイオマーカーペプチド



ProtoKey[®] 大腸がんリスク検査をスクリーニングに用いることで大腸がんの早期発見・早期治療の可能性を高めることが可能です。

<報告レポートイメージ>

A3見開きの報告書を作成させていただきます。
報告書には大腸がんを予防するためのヒントや測定物についての解説も記載しております。
また、評価C(高リスク群)の方には必要に応じて精密検査の実施を推奨しております。

ProtoKey® 大腸がんリスク検査報告書

氏名 サンプル タロウ様 性別 男性 年齢 47歳

受診日 2024/4/1 カルテID 123456789

今回のProtoKey®大腸がんリスク検査の結果

血中ペプチド濃度の解析結果より、リスクインデックス値は**0.01**であなたの結果値と同等の方は**評価A(低リスク群)**に分類されます。

結果コメント

今回の検査結果ではリスクインデックスの値から、評価A(低リスク群)に分類されました。
大腸がんは症状に気づきにくいがんともいわれています。今後も定期的に検査を受け、大腸がんの早期発見・予防に努めましょう。また、食生活、喫煙、飲酒などの生活習慣の乱れにも注意しましょう。

(各)リスクの分類について

評価A (低リスク群)
リスクインデックス: 0.00-0.41
リスク因子を避けて、健康的な生活習慣を心がけましょう。また、リスク管理のためがん検診や本検査の継続的な受検をおすすめします。
*「低リスク」群であっても疾患の発症可能性が否定されるものではありません。

評価B (中リスク群)
リスクインデックス: 0.42-0.91
喫煙習慣や肥満といったリスク因子をお持ちの方は、生活習慣を見直し、健康的な生活習慣を心がけましょう。また、リスク管理のためがん検診や本検査の定期的な受検をおすすめします。
※1年に1回程度

評価C (高リスク群)
リスクインデックス: 0.92-1.00
医療機関とも相談の上、専門医の受診をご検討ください。必要に応じて、大腸内視鏡検査などの精密検査(右ページ参照)の実施を推奨いたします。

※他検査の結果を踏まえ、必要に応じて専門医の受診や精密検査の受診をおすすめします。

大腸がんのリスク因子について

大腸がん発症の危険性を増加させるリスク因子がいくつか報告されています。予防の第一歩として生活習慣の改善を心がけましょう。

食生活
赤身肉や加工肉(ベーコン、ハム等)の過剰摂取は大腸がんのリスクを上昇させるといわれています。

喫煙
喫煙は大腸がんの発症危険度を増加させるとされています。また、動脈硬化やその他のがんのリスク因子とも考えられています。

アルコール
アルコールを1日1回以上摂取する方は、お酒を飲まない人に対して、2倍以上大腸がんのリスクが高まるといわれています。
*エタノール濃度約23%程度

肥満
肥満は大腸がんのリスクを増加させることが報告されています。特に男性ではBMI(肥満指数)が25以上の方が、それ以下のの人に比べて大腸がん発症の危険度が2倍ほど高まるといわれています。

※本報告はがん研究センターがん予防・検診センターが、科学的に裏付けられたがん予防のヒントを基に作成されています。

大腸がんに関する精密検査について

大腸がんは自覚症状が少ないことで知られています。必要に応じて専門外来の受診や精密検査の実施をおすすめします。(下記は実施例です。)

大腸内視鏡検査
肛門から、管状のカメラを入れて、大腸全体を観察する検査方法です。大腸がん、大腸ポリープなどの疾患の発見に優れています。

CT検査
X線とコンピュータを使用し、大腸の画像を撮影する検査です。内視鏡を導入せず大腸の鮮明な画像を撮影するため、「バーチャル大腸内視鏡検査」とも呼ばれています。

※ProtoKey®大腸がんリスク検査は医師の診断を代替する検査ではありません。
※大腸がんの診断は、その他の健康診断の検査結果や精密検査の結果をもとに総合的に判断されるものです。

検査項目名	ProtoKey® (プロトキー) 大腸がんリスク検査
検体量	血清 1.0 mL
容器	一般生化学採血管
保存(安定性)	血清冷凍
報告期間	検体受領から3~4週間
測定・解析機関	株式会社プロトセラ
検査方法	質量分析法
備考	ProtoKey® (プロトキー) 大腸がんリスク検査は大腸がんのリスクを判定する保険未記載の検査です。 ProtoKey® (プロトキー) 大腸がんリスク検査の結果のみで大腸がんの有無を判定する検査ではありません。他検査の結果と併せて今後の検査・治療方針の検討にお役立て頂くことをお勧めいたします。

参考文献

- Uchiyama et al., Peptidomic Analysis via One-Step Direct Transfer Technology for Colorectal Cancer Biomarker Discovery J Proteomics Bioinform. 2015, S5 DOI: 10.4172/jpb.S5-005
- Kazuhiko Uchiyama, et al, Selected reaction monitoring for colorectal cancer diagnosis using a set of five serum peptides identified by BLOTCHIP®-MS analysis. J Gastroenterol. 2018 Nov;53(11):1179-1185. doi: 10.1007/s00535-018-1448-0. Epub 2018 Mar 1.